

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572706323		
法人名	社会福祉法人 横手福寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームひだまりの家(せせらぎ)		
所在地	横手市増田町吉野字梨木塚101-1		
自己評価作成日	平成30年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成30年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である『ゆったりとした暮らし』『その人らしくいきいきとした暮らし』『地域とのふれあいを大切にしたい暮らし』を念頭に置き、入居者様おひとり御一人が居心地良く生活出来る様に配慮している。個々のペースを大切にし、起床や食事の時間、入浴のタイミングなどおひとり御一人のペースに合わせた対応を行なっている。医療面では訪問看護と連携し、日々の健康相談や連絡体制の整備している。週一回の訪問で健康管理を実施し、体調管理に努めている。また可能な限り在宅時のかかりつけ医を継続利用し病状の把握、安定に努めている。食事の面では食材の買い出し、献立の検討・調理に積極的に入居者様にも関わって頂いている。地域との関係としては近隣の保育園・小学校の運動会や学習発表会へご招待頂き、こちらからは草むしりやゴミ拾いに出向く地域との交流へ積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が入居者の希望を個別に聞き取り、それをすぐに実行する体制が作られていると同時に、職員に行動力があることで、入居者は生活に楽しみや張り合いを持つことができ、これが入居者や家族の満足につながっている。管理者や中間層がスタッフとよくコミュニケーションを取り、スタッフの意見を尊重する姿勢がそれを可能にしていることが伺われた。地域とのつながりを大切にしながら、入居者の自立支援の観点を持って草むしり等の貢献活動を行っており、入居者にとっても感謝されることが生きがいとなっている。研修内容も一方的な情報提供だけにとどまらず、実際の業務の中の具体的事例を全職員から取り上げることでより実践につながる研修になるよう工夫がされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議にて理念の確認を実施。 地域に積極的に出ており、保育園や神社の草むしりの実施。	職員会議の時に毎回必ず理念を復唱することで意識付けをしている。また職員一人ひとりに理念をどのように実践しているか発表してもらう機会を設け、理念の実践について考える工夫をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念に基づき保育園や神社での草むしりの実施。朝市での買い物。保育園よりは運動会にご招待を頂いた。 運営推進会議に地域協力員の出席を依頼している。	保育園や神社で草むしりをする事で地域とつながりを持っているだけでなく、「ありがとう」と感謝されることで入居者の方々のやりがいにもつながっている。また、草むしりがきっかけで保育園の運動会に招待されたとのこと。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	年4回広報誌『あがってたんせ』を地域や関連機関へ配布している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み内容を報告し、助言や意見等を頂いている。	請求書の発送時に全家族に運営推進会議の案内をしており、毎回数名の家族の参加がある。入居者の誕生日に外食を企画した際、会議に出席した家族から入居者の好きな外食先を教えてくださいなど、会議での意見を活かしお祝いすることができた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ職員を派遣していただいている。 介護相談員の受入を行っている。	運営推進会議には毎回、市の市民サービス課職員に参加してもらっている他、制度の確認については市の高齢ふれあい課に相談し連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為夜間のみ実施。また研修会を開催し身体拘束廃止へ取り組んでいる。 身体拘束廃止マニュアルの作成	現在身体拘束の対象者はいない。身体拘束についての研修は毎年開催しており、その際マニュアルの内容の確認も行っている。マニュアルには身体拘束した際のカンファレンスの様式、家族への説明書の様式等が整えられている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の開催し理解を深める働きかけを行っている。 高齢者虐待防止マニュアルの作成し、いつでも閲覧可能な場所に設置している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の開催し理解を深める働きかけを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望時や施設見学の際に契約書や運営規程等を資料として配布している。 契約書の内容、改定の内容説明し了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて御家族へ要望を伺っている。またご意見箱を設置している。ケアプラン更新の際には双方の意向を伺っている。	意向満足度調査を実施し、調査結果を職員で共有し、入居者から意見が出た項目については話し合いを行って改善を図っている。運営推進会議にも家族が参加することで意見が言いやすい環境ができている。	意向満足度調査の調査項目に、職員の対応に関する項目を入れてないユニットがありましたので、2つのユニットとも共通項目での調査を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議には管理者も同席しているが、個別に話し合う場を全員とは持てていない。	普段の業務の中で積極的に職員から提案が出されており、管理者が職員の意見を尊重する姿勢を見せていることで、すぐに実行に移すことができている。それが入居者や家族の満足につながっていることが確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に沿って運営されており、条件整備もされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業内研修にて新任研修・現任研修を計画・実施している。 事業所外研修へも個人に合わせた研修を受けれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム情報交換会の研修へ参加している。その活動において職員の交流事業へ参加した。また同一法人のグループホームと定期的な会議を開催や合同での行事の実施など行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人より聞き取りを実施している。聞き取り項目以外も積極的に伺うようにしている。利用開始時は特に積極的にコミュニケーションを図り、事前情報との差異や新たな気づきを共有し、サービス提供に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時、御家族から要望の聞き取りを行っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の情報を基に得意なことや好きなことを職員と実践できる機会を設けている。		
18		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族へ月に1回、『ひだまり通信』を送付している。その際は写真や受診報告を同封し、状況の理解が深まるように働きかけている。受診対応が可能な御家族にはご協力いただいている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員の馴染みの関係を把握できているとはいえない。 地域の朝市に出掛ける機会を設けている。	朝市に出掛けることで昔からの知り合いと交流することができている。また、なじみの理容店に行ったり、なじみの美容室に来てもらったりと、昔からの関係を継続できるよう努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事仕事を1人には依頼せずに複数名にお願いする等し、交流の機会を設けている。孤立しがちの方には職員が仲介しコミュニケーションを図っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居の際には、いつでも相談していただきたい旨をお伝えしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時に本人・御家族のご意向を聞き取りを実施している。アセスメントにおいても御家族の情報や背景を基に本人本位に検討している。意向満足度調査を実施している。	毎年ケアプラン更新時にアセスメントを行い、入居者の生活歴をたどったり、どのような思いを持っているのか人物像を確認している。思いを聞き取るだけでなく、それを行動に移す実行力がある。	利用者の思いを把握するアセスメントの内容に職員間で差が見られましたので、なるべく同じ水準で思いの把握ができるよう工夫を期待します。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に可能な限り『発症経過シート』への記入をお願いしている情報の把握に努めている。また日常会話の中からも得た情報も書き留めケアに活かしている。			
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況や気づきをカルテや連絡ノートに記載し情報の共有、把握に努めている。また勤務開始時には口頭での申し送りを実施している。			
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・御家族のご意向を聞き取り、担当外職員からも意見を聞き計画作成担当と担当者にて話し合いの場を持ち介護計画を作成している。	職員会議では入居者の状況に応じてカンファレンスを行い、職員が意見を出し合って支援の方向性を決めている。ケアプラン更新時には改めて本人・家族から要望を聞きながら計画を作成している。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテや連絡ノートに記載している。また会議の場においても情報交換を行っている。			
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や地域の神社へゴミ拾いや草むしりへ出掛けしている。同一法人の事業所と交流も行っている。			
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、薬局の希望がある場合は可能な限り対応している。	ほとんどの入居者が入所前までかかっていたかかりつけ医に通院している。法人内の口腔衛生課から歯科衛生士が月1回来訪して歯の状態を診てくれることになり、入居者の安心につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、週1回の訪問を実施している。入居者様の健康管理を実施している。また状況報告を行い対応の相談をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は御家族が対応できない場合は洗濯の持ち帰りを行っている。出来る限り面会に伺っている。入院時や面会の際に看護師と情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りを行わない方針であることを説明させて頂き、理解を得ている。重度化しそうな時も御家族と話し合う機会を設け、ひだまりの家で対応できる範囲の説明、並びにその後の事を相談していく事を確認している。	看取りは行わない方針であるが、重度化してもできる範囲内でホームで生活できるようにしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアル、緊急時対応マニュアルの作成。 研修会を開催し理解を深める機会を設けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(日中、夜間想定)の消防避難訓練を実施している。 ひなたの家と合同で水害想定での避難訓練を実施している。	夜間想定での避難訓練では、同じ法人内の施設からも応援が来る設定で訓練を行っている。水害想定での避難訓練では隣のグループホームとの協力体制を作りながら訓練を行った。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を開催しプライバシーの保護について理解を深める機会を設けている。 プライバシー保護マニュアルを作成。	「プライバシーの保護・個人情報の漏洩」についての資料を配布した上で、普段の業務の中でどんなことがプライバシーの侵害や個人情報漏洩にあたるのかを具体的事例を挙げて確認しており、実践的な取り組みをしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や希望を普段の会話から意識し働き掛けている。また意志表出の少ない方に対しては簡単な質問内容に言い換えて働き掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の希望に可能な限り沿うようにしているが、職員からの提案や働きかけに同意される機会の方が多い。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等は極力入居者様にご用意して頂いている。入居者様の希望によりマニキュアを用意している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の相談や下処理、調理、皿洗い等出来る事、好む事に合わせてお手伝い頂いている。誕生日の方にはその方が好まれる内容で提供させて頂いている。	下処理や調理、皿洗い、食器拭き等の役割を担ってもらうことで入居者の生きがいに繋がっている。入居者の希望で漬物を作ったり、流しそうめんをしたり、季節に合った献立にしたりと、食事を楽しめる工夫をしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握している。 小さなコップを使用しこまめな水分補給を促している。 状態によりお粥や刻み食にて提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	りんごの里の口腔衛生課の訪問が月に1回訪問し、口腔内評価や衛生指導を受けている。毎食後の口腔ケアに活かしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い状況を確認し、定時誘導や希望時に声を掛けている。またその方に合った排泄用品を選んでいる。	排泄チェック表に記録して一人ひとりの排泄パターンを把握している。排泄の頻度や量で排泄用品を個々に使い分け、入居者が快適に過ごせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、散歩やリハビリ体操等の運動の機会を作っている。また乳製品(ヨーグルト、ヤクルト)を個別に提供している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に希望を伺い対応している。また近隣の温泉施設にも足を運んでいる。	毎回入居者に希望を聞いて行っており、一人ずつゆっくり入れるようにしている。季節によってはリンゴ湯にしてお風呂を楽しめる工夫をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お1人おひとりの状況や希望に合わせて午睡や休息の時間をとって頂いている。また日中の活動量が増え、夜間の良眠につながるように取り組んでいる。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤説明書をファイルし内容の把握に努めている。 訪問看護と連携し受診結果や薬の変更などを都度、報告し助言を頂いている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲や能力に応じて各々が日々の生活において役割をもって生活されている。家事仕事を手伝って頂いた際は必ずお礼をお伝えしている。 製作作業においても地域の展覧会に出展するなどしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて個別外出の計画し機会を設けている。また偏りが生じないように予定表に実績も記入している。	2か月に1回、入居者一人ひとりに希望の外出先を聞き取りし、それを一覧表にして机上に置いておくことで職員が常に意識できるようにしている。隙間時間を有効に利用して、外出できるよう時間を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持されている方おられるも、支払いの機会等はほとんど無い。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話にてお話が出来るように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成された作品を共有スペースに飾ったり、外出時の写真を掲示している。 定期的の清掃の他、適宜の清掃で清潔の保持に努めている。	外出時の写真や行事の写真を掲示することで、入居者同士が会話する際の話題になっている。和室にはこたつも置いてあり、そこに入って昼寝するなど、より家庭に近い雰囲気でも過ごせるよう工夫されている。週に1回、アニマルセラピーの犬が来て、入居者の楽しみになっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にコタツやソファを用意し気軽に休めるように環境作りしている。 入居者様同士で和室で洗濯たたみを実施後、こたつで午睡されたりしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みに応じ写真やイラスト、製作物を飾っている。愛用品や位牌を持ち込まれている方もおられる。 入居者様と相談し、動線に配慮した家具の配置を行っている。	居室にはタンス、ベッド、エアコンが完備されており、タンスは収納スペースが大きく取ってあるため物の整理がしやすいであった。居室の壁には写経など入居者が自分で作った作品が飾られており、その人らしさが伝わってくる居室空間になっていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からなくならないように目印を設置している。居室内で安全に行動できるように家具の配置を入居者様と検討している。		